

2、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

① 昨年度の自己点検表を用いて見えてきた課題への取り組み

評価項目	具体的な取組状況
Ⅱ「保育の在り方、幼児への対応」	<p>【3歳以上児】 1階倉庫の整理について何をどこに置くのかということをも3月の誕生会のあとに決める。多くの職員で整理整頓を行ったことにより、決めたことを共通理解し1階倉庫が使いやすくなった。</p> <p>【3歳未満児】 月案の作成方法を変更した。担任だけでなく、クラスに関わる職員でアイデアを出し作成していった。担任だけでなく関わる職員の意識も高まり月案がいきたものになった</p>

【1回目の自己点検・自己評価を通して】

今年度は「Ⅲ 保育者としての資質や能力・適正」「Ⅴ 地域の自然や社会との関わり」を重点項目とした。

<7月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

①「Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性」

「仕事を効率よく行っている、幼児教育にまつわる情報を日ごろから得ようとしている」という項目で評価が低かった。

「定時に仕事を終わられない」「効率よく仕事ができない」「幼児教育に関する情報を得なければならないと思っているが、毎日の業務が忙しくその時間がなかなか作れない」等の意見が多くあがった。

職員室で仕事をしていても、電話対応や緊急時(けが・病気の対応・嘔吐処理など)の対応、行事の準備などがあり、集中できる時間が少ない。行事前の環境整備(大園庭・中庭・駐車場(3か所)・園前道路)の草取り、こけとり、花壇整備等に時間がかかり、保育の記録活動準備ができる時間が少なくなる、帰る時間が遅くなるのではないかと考えた。そのため、業務時間内に終わらない仕事は何なのか?電話対応や突発的な対応の無い「ノンコンタクトタイム」の実施は必要か?をグループディスカッションで話し合うことにし、それぞれの抱える仕事を精査し、幼児教育・保育について語り合う時間や保育者が専門性を高めるため(研修の参加、参考書を読む、調べる)の時間を確保できるようにしたいと考えた。

②「Ⅴ 地域の自然や社会とのかかわり」

「小学校が園でのこどもの育ち等についてどのような情報を必要としているか理解しようと努めている」について全体的に評価が低かった。園での保育が小学校への準備へとつながっていることは理解しているが具体的にどのような育ちを小学校側が求めているのか、必要な情報は何かかわからないという意見が多かった。そのため7月の幼保小連携合同研修会にて幼保小の接続期についてグループワークを行った。グループワークを行ったあと再度自己点検を行ったところ、理解が深まり評価があがった。

【グループディスカッションを通して】

<グループディスカッション内容>

①効率よく進めるために自分の仕事の中で勤務時間内に終わらなかつたり時間を要する仕事はどんなものがあるか、子どものために必要なもの、省略できるものを考える

②「ノンコンタクトタイム」は必要か?ノンコンタクトタイムで優先すべき仕事は何か?頻度や時間の長さ、場所はどこが望ましいかを考える①自分が抱えている仕事はどんなものがあるかを出し合う。

②出した仕事を主任・担任・副担任・パート職員ごとに分類し、また日、週、月、学期、年、行事、非常時と分けて表にする

③省力化のためにどのような工夫ができるか考える

④実行に向けて担当を決め作業を進める

2グループで話し合ったため2グループの意見をすり合わせ、より良い改善策を立て、担当者を決め作業を進めていった。また、省力化するための決まりを決めた。沢山の改善策が出た。

●改善策例(全24例)

課題	改善策
①回覧書類が多く、何が急ぎなのかわからない状態で各職員のボックスに入っている	・回覧書類の色分けを視覚的に分かるよう工夫する→クリアファイルを購入しテプラを貼る(赤:緊急青:じっくり確認)
②保護者への連絡方法について発熱の迎えなど繋がらず何度も電話をかけることもある。	・緊急連絡先①～③をかけて繋がらなかった場合、キッズリーの個別連絡機能を使うことを徹底する。(ただし30分経過しても折り返し連絡がない場合は再度電話連絡を行う)
③事故が発生すると、報告書作成、病院受診などがある。事故を減らしたい!	・ヒヤリハットに気が付けるようにワーキングを行う ・事故報告書から事故を検証し、起きやすい時間、場所などを把握し事故予防をする
④ブログについて職員によって文章量、写真枚数が異なる	・マニュアル化し統一をはかる
⑤誕生表作成の負担が大きい	・写真を使用し、簡略化しながら、分かりやすくしていく
⑥クラスだよりをデータ化することで作業効率をあげたい	・R2年度からパソコンで様式を作っていく その他手紙もキッズリーで知らせられる内容はペーパーレス化し、環境保全、配布ミスなど防いでいく

●ノンコンタクトタイムの実施

担任は1週間に1日は確実にノンコンタクトタイムを職員室以外で実施。その時間は電話対応や嘔吐対応、片付けをせず、集中して仕事ができるようにする。

【2回目の自己点検・自己評価を通して】

今年度は「Ⅲ 保育者としての資質や能力・適正」「Ⅴ 地域の自然や社会との関わり」を重点項目とした。

<1月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

①「Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性」

「1-③保育者並びに他職員が仕事の手順を考え能率よく行えるよう支援している」の項目について1回目の自己点検の時よりも評価が上がった。夏のグループディスカッションの改善策を現在実行中であるため効率化できていると手ごたえを感じている保育者が増えてきていることがわかった。各人も意識していることが伺える。来年度に向けて改善策を引き続き進め、定着できるようにしていく。

②「Ⅴ 地域の自然や社会とのかかわり」

「2-①園の保育内容が小学校への準備としてつながることを理解している」の項目について、今年度の保幼小連携の研修でテーマに取り上げたこともあり、評価が良くなった。また複数の項目で文言が分かりにくい箇所があったため、変更する。

来年度に向けて取り組む事

☆改善策の実施

☆ノンコンタクトタイムの定着当

☆働き方改革

【学校関係者評価委員会メンバー】（敬称略）

アドバイザー：東京福祉大学准教授 鈴木美子

笛木 隆	南魚沼市教育委員会 管理指導主事	富井 茂	塩沢小学校 校長
八木 三男治	元小学校長・学校法人監事	田村 佑介	当園 PTA 会長
大橋 城	当園 PTA 副会長	石川 勇希	当園 PTA 副会長
事務局	角谷金城幼稚園長	角谷金城保育園長	担当：瀬下教頭 貝瀬主幹保育教諭

3、来年度へ向けて

評価項目	具体的な取組状況
①「Ⅲ 保育者としての資質 や能力・良識・適性」	○沢山の改善策を実践していく ○ノンコンタクトタイムの定着 ○働き方改革

4、学校関係者の評価

・今年暖冬のためスキー教室に行けなかったが、その分おゆうぎ会練習に集中できたのではないかと思う。その成果が今日のさくら組の劇発表の姿に出ていると思う。今の時期にあれだけの発表ができる姿に驚いた。

・今まで園として得意としてきた『地域の特性を生かした保育』を今後も続けて行いつつの働き改革を工夫して欲しい。

・手紙やおたよりの省力化について、配布物（紙媒体と電子化媒体）の分けをしっかりとすれば良いと思う。

・行事が基本的に土曜日だが、どのように日程を決めているのか？一般的に第一、第三土曜が仕事の人多い。第二、第四土曜に行事を行えると参加者も多いのではと思う。
→調整できる行事とできない行事があると思うが、検討してみる。

・今回、暖冬によりスキー大会についての変更がいろいろあったが、分からないことを誰に聞けばよいのか分からなかった。窓口となる担当を手紙に記載してもらえると聞きやすい。
→反省に残し、次回生かせるようにしたい。

・手紙の省力化について、kidsly（電子化媒体）を使用する際、返信ボタンがあるが返信してもらって誰が見たか、見ていないかを確認し、見ていない人に手紙を渡すなど対応したらどうか？返信ボタン活用すればペーパーレスも進むと思う。
→一人ひとりの返信状況を確認するということの負担が大きい。現実的に難しい。

・常に課題、問題に向き合っていると感じる。

・園の整備について、日程については検討が必要。相談してもらえれば協力したい。

・スキー大会では変更などあって大変だが、役員に伝えてもらえれば協力できることもある。LINEなどの媒体も活用すれば、よりスムーズになると思う。

・鈴木先生のアドバイスもあり、毎回着実に前進している。

・園が目前の子どもたちにどのように教育を実現していくかについて常に考えて取り組んでいることがよく分かった。小学校でも見習いたい。

・職員みんなが同じベクトルで、周知して取り組む姿が素晴らしい。小学校では職員皆が気持ちを持つ事が難しい。うらやましい。

・夏に小学校教員と一緒に取り組んでいる幼保小連携研修会は続けていきたい。

・さくら組の劇では、子ども達一人ひとりがイキイキとした様子だった。あのステージに立ってイキイキと表現する姿は素晴らしい。中には苦手な子もいると思うが、保育者がサポートしたり子ども同士で教え合ったりする姿がよく見えた。普段の生活の積み重ねと感じた。

・少子化と言われる現代。子どもは宝である。地域総がかりで子どもを育てることが必要。小学校も中学校も一体になっていくべき。

・先生が子ども達と向き合う時間を作るために保護者も協力するという姿勢が素晴らしい。（園の整備お手伝いなど）

- ・働き方改革は、“保育の充実のため”“子ども達と向き合うため”が目的。先生がイキイキと子ども達といられることが大切。先生が輝ける職場づくりにして欲しい。
- ・年長児の姿を見て、落ち着いて自覚を持って取り組んでいた。当園の学校評価は10年以上の取り組みであるが、いよいよ充実している。先生方が資質を高めることが子どもの成長に繋がることが大切。
- ・自己点検の内容、項目を具体的に分けるなど、今までの積み重ねによって互いにみんなで考え合うということができている証だと思う。
- ・“みんなが意識を持つ”こと、実際に行動ができていなくてもそれを意識しているかしていないかで違う。とても大切なこと。意識を持っていれば、いつか形になっていく。
- ・ノンコンタクトタイム…子どものために集中して仕事に取り組むことも大切。また、職員間で他職員が今どんな仕事を行っているか分かることも必要。お互いを見合うということもできる。
- ・働き方改革は何が必要で何を削るか、精査しなくてはならずとても時間のかかること。保育の何を大切にするか十分検討し、実行する事が重要。子どもを育てるために“手をかけること”は欠かせない。

5、苦情解決結果報告

令和元年度は1件ありました。

- ・運動会練習時の音響を小さくしてほしい。
- 近隣の方より匿名で連絡がありました。音響の音を小さくすること、スピーカーの位置を変え、園にむかって音が出るように改善しました。